PNEUMA崩壊

CC

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ＰＮＥＵＭＡ崩壊

【Ｎコード】
Ｎ３８０６Ｚ

【作者名】
ＣＣ

【あらすじ】
お馬鹿はどんな局面でもお馬鹿である。シリアスですか？食べれないものに興味はないんです。これが我らが主人公名前未決定。何となく暇だったのでやってしまった思いつき。後悔かい？してるさ、反省も。
もう一つの初投稿作で見切り発車しすぎて逃げたんじゃー！！！！！
ごめんなさい。

ご飯（前書き）

見切り発車はそのまま終電。

あれはどうしよか？書くか書かないか・・・・・とりあえずどうぞ。

ご飯

精神病棟地下3階、そこには普通の患者は存在しない。

「またか、また精神欠損患者か」

一人の白衣を着た男がカルテを見てつぶやく。

「はい、今回の患者は腕のみの変形ですが、切り落としますか？」

こちらも白衣を着た女性で、もう一人の医者らしき男に話し掛ける。

「いや、これは手遅れだな。恐らく、腕を切除しても進行は止まらんよ。内容を見たが精神が既に崩壊しかけている」

渋い顔しながら、やれやれといった感じで言う。

「では、地下閉鎖域へ収容しても？」

女性の方は涼しい顔で男へ問い返す。

「ああ、そうだな。もはや自我意識が殆ど無い状態だ、いつ人を襲うか判らん。回復は見込めんよ」

男は立ち上がり、彼女にも現状の症状のカルテを見せる。

「そのようですね、ではご家族への説明の準備をしましょう」

「ああ、頼むよ」

そう言って、彼女の答えを聞き、男はそのまま出ていこうとした時呼び止められた。

「先生、忘れていたのですが例の患者が目を覚ましました」

この言葉によって、男は急いで駆け出していくのだった。

「あ～ぁ、よう寝た気がする。にしても、俺いつ入院したんやろか、全然記憶にないんやけど？」

ひとりの青年が真っ白な飾の一つない空間で一人呟いていた。しかもこの青年、どうやら入院したことも、していたことも知らないらしい。

「なんかお腹すいたんやけど、ナースコールしたら飯ってもらえんのかいな？押してみるかいな」

青年はどうやらお馬鹿のようだ。そんなお馬鹿は押すに相場が決まっているし、怒られることを決して恐れはしない。何故なら、怒られることをしているつもりは全くないのだから。

「あらポチっとなっと」

ガッチャっ！！！！

「はやっ！！！めっさ早！！今押した「本当に目が覚めていたのか」・・・・ご飯は？」

医者の男と青年の目があった。ここからラブロマンスに・・・・・そんなもの始まってたまるか。

「ご、ご飯の時間は決められた時間しかないんだよ、ここ病院だし。そ、それよりも、今こうして話していることが君は理解できるかい？」

医者はいきなりご飯のことについて聞かれたため、非常に錯乱した。普通は自分が今どういう状況かを聞くのが先だと思う。だが、この青年には通用しない。

「へ？何言っちゃってるんですかい、そんなん普通でしょう。人をバカにしちゃあいけませんよ～」

「え、いや、うんと、はい」

どうやらこの医者は青年のペースに飲まれたようだ。まぁ、それはそうである、この青年はつい一年前まで全身が変形し、もはや人間ではないものへとなっていたのに、つい数週間前になぜか急激に

人型へと戻ったのだから。そりゃあ開口していきなりご飯でんでんの話を普通に喋れるとも思わない。

「はぁ～、で、購買ってどこですか？」

「あぁ、この階にはなくてね・・・・・じゃない、ウウッン。いいかい、君はね昨日まで昏睡状態で、つい一年前まで精神崩壊患者の第一級の生体変型者だったんだよ。治る方がおかしい病気で、君の場合はもっとも絶望的だったんだよ？解る？ねえ、解る？これかなり重要だよ？」

第一級の生体変形患者は国が認める保護患者だ。保護といっても隔離して出られないようにする措置が取られる。連続殺人などされては国としてもたまったものではないのだから。

「あの～それって分かったらご飯もらえますか？」

「だー！！！！もう、話の流れがごちゃごちゃになるからご飯から離れなさい！」

医者はどうやらご立腹のようです。

「へい、話が終わったらご飯出してくれるならいつだって真面目に聞きましょうとも」

「分かった、出すよ」

医者から何だか可哀想なオーラが出ていることはしょうがないことだろう。

「了解しやした、言質貰いやしたからね？」

「はいはい、それじゃ話すよ？まず、精神崩壊を起こしたら普通は呆然自失になったりするよね？でも君たちのような身体に異常をきたす例もあるんだ。しかも、化け物のような容姿になったり、溶けたり、腐乱死体のようになったりと様々なんだけど、君はこの全てに当てはまらない。君は文字同理に肉塊になってたんだ。しかも普通の患者と違って暴れるでもない、さまよいもしないただ寝てるだけ。普通は大概さまよう患者さんが多いけど、君起きないし脳波も睡眠状態、不気味以外のなにものでもない肉の塊、それだけでも特殊でしかも目を覚ました。しかも、人型に戻って尚且つ普通に話すからびっくりしたよ。でね・・・・・」

凄い勢いで話し続ける医者。だが、青年に理解できようか？

「先生、長いしわかりましぇん」

どこの鼻水小僧だねってくらいにアホずらをかましている。まあ、医者も医者で興奮のあまりちゃんと話せていない。

「はっ、すまんすまん、興奮していて話が要領をえてないね。まあ、つまり君は奇跡的な回復を遂げたわけだ。一応、退院できる運びになるから、それだけ覚えておいて」

医者は未だに興奮しながらブツブツ言い、部屋から出て行った。

「おいらのご飯はどうなったね？」

答えてくれるものは誰もいない。

ご飯（後書き）

は～、主人公の名前はどうしよう。

馬鹿（前書き）

ふう、こっちの方が見切り発車より書きやすい。だが、結局文才はなかった。

馬鹿

ギュウ～ぅううう

「先生、さっきはご飯出すっていったやん」

どうやら医者はすっかり忘れているようだ。まあ、出す必要はないのだが。

「ナースコールじゃー！！！！！飯飯飯いいいいいい～！！！！」

押す押す押す押すひたすら押す。待て、それはまずい。それは世で言う死亡フラグだ。

「うるせえ、一回鳴らしゃわかんじゃ。それとも何か？テメーをここの病院食にしてくださいって意思表示か？いいぜ、ここにいる奴は大抵まともに社会に出れねーからな。ひとり消えてもわかりゃしねーよ」

叫んでいると、綺麗なお姉さん・・・・・幼女が来ていた。どうやら押すのが楽しくなっていたようでそれだけをひたすら繰り返して周りが見えなくなっていたようだ。

「申し訳ございません。本当に、誠意を込めて！ですのでどうか消さないで頂けないでしょうか？」

青年は土下座していた。ええ、それはもう綺麗なフォームで。冷たい床に頭を擦りつけ、ひたすらに。

「ああ、分かればいい。だが、手遅れだ。」

「へ？どういみですかい？」

幼女はどうやら本気のようです。

「おらぁ！！！！」

「ひぃいいいいい！！！お助けぇ！！！」

がんっ！

青年の目の前には病院食が置かれていた。

「あの、太らせてから食べるんです「ちげーよ、先生がもってけって言ってたから持ってきたんだ」おお、約束忘れてなかったのね」

キラキラ目を輝かせながら食事を見る。それはもう、待てと言われた犬が「よし！」って言われた時のように素晴らしいくらいに嬉しそうだ。

「待て」

そこでお約束の言葉がかかる。こんな光景を見たら言いたくなるのが世の常ではなかろうか。

「ちょ、それはないでしょう」

「いや、すまん。ついな、ついそう言わないといけない気がした

んだ」

そう言って苦笑いしながら、「マジで真っ当な人間に飯出すの久しぶりだわ」とボソリと呟いた。それはそうだ。相手はもはや人間ではないようなものばかりのこの階、通常こんな会話ができるものなどいない。と、言うより対面してご飯など届けない。そんなことをすれば下手をすると本当に死んでしまう。

「いただきまーす」

「ああ、食え食え初の生還者」

ご飯を食べる青年を見ながら、微笑ましいものを見る目で見つめる。

「冷めててマジーんでしけど」

「文句があるなら食うな」

だが、馬鹿は馬鹿であって、空気が読める訳がない。

馬鹿（後書き）

読んでくれた方、あなたは神だ。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3806z/

PNEUMA崩壊

2011年12月12日23時47分発行